

『町内会のみなさんこんにちは』 いつも町内会の活動にご協力いただき感謝いたします。

第5号	<b>日の出町内会かわら版</b>	発行日 2024年4月
不定期発行		日の出町内会広報部

昭和37年(1962)頃の写真です。「博善社の山斜面を50m登り東側(左)を写しています」



- ① 石山通（国道230号）当時は片側1車線のコンクリート道路、ミューン大橋からの交差点
- ④ 米屋さん（現在のセイコーマート）、⑤は銭湯南の湯（現在マンション）、⑥玄松寺（現在も同じ）、⑦渡邊百貨店（現在のフォーエル）、⑧畑（現在レクサス藻岩店）

この頃は高い建物がなく、豊平川真夏の花火大会が我が家の2階からよく見えました。後に郵政官舎（通称郵政アパート）が4棟建ち、その後3棟増設された時代（写真②は現在はスズキ自動車、写真③スバル自動車の裏側一帯です）、地域の人口が一気に増えました。住所的には他の町内会になりませんが、その当時は写真④南29条のセイコーマートの向かいの建物（今は倉庫となっている建物）には、マルマン百貨店（八百屋、魚屋、肉屋を中心にした寄合市場）があり、南署の前の現在の「フォーエルのお店」は、同時期に写真⑦渡邊百貨店（同市場）が競い合っていて、両店ともに同様の品ぞろえで賑やかに繁盛していました。小学生だった頃の私は、買い物はいつもどちらかで普段の食卓はもちろん、薬も、運動会の時の足袋や鉢巻き、遠足のおやつなど大体はそろったものです。楽しみといえば、年末恒例の百貨店の歳末大売出しです。福引抽選会があり、ワクワクしてくじ引きをしたのが楽しい思い出として今も残っています。最盛期は昭和47年くらいまでだったでしょうか、その頃からは車社会が一気に進み消費動向にも変化が出始め、郊外の大型スーパーへと移っていき個人商店が次々と姿を消していく時代となりました。

南30条発大通り4丁目行ノンストップバス（特急バス）のようなのがあり、もちろん一般の方も乗れたのですが、今改めて思うと郵政職員直通バスのような感じでした。郵政官舎は昭和36年に4棟、後7棟に増え1棟あたり24世帯×7棟=168世帯で約600人（世帯当たり3.5人として）の団地となっ

『町内会のみなさんこんにちは』いつも町内会の活動にご協力いただき感謝いたします。

ていました。平成10年を過ぎた頃から徐々に空きが目立つようになり、しばらくは遊休地でしたが、今では官舎はすっかり姿を消して、半分は分譲の戸建ての街へ、残りはまだ空き地が残っています（眼鏡市場の裏一帯）。



百貨店の出来る前の近所の記憶を辿っていくと、南29条のセイコーマートになる前は米屋さん（玄米がおいてあり精米をしてくれる米屋）その後お酒を扱うようになり1970年代後半にチェーン店に加盟しました。又すぐお隣は現在マンションになっていますが昭和33年頃までは養鶏場がありました、それほど規模は大きくない（鶏舎は1棟）50～60羽いたでしょうか、それでも当時小学生低学年の私は毎日「コケッコー」の鳴き声が響いていたのを覚えています。距離にして直線で30メートルほど。その後は建屋を改装し、昭和40年頃から昭和60年ころまで「高砂寿司」がありました。このお寿司屋さんと米さんの間には「南の湯」という銭湯があり、まだ家庭の風呂が普及していなかった頃は多くの方が利用されたのではないのでしょうか。

戦後から昭和の40年代までは小売店はみな個人商店であり、富山の薬売りをはじめ、物売り（金魚・物干しの竹竿等）が往来を闊歩していました。子供の楽しみは、自転車で引っ張ってくる「紙芝居」、ブドウ糖の四角い菓子をくりぬき、上手にできるとおまけがあり、水飴売り、串団子売り、米を持参し「爆弾と称する米菓子」は大きなドーンという音と供に何倍にも膨らんで、魅力的な楽しみが多くありました。



・今後ですが、昔の南小学校近辺や町内会に40年以上住んで見える方の座談会の様子などを予定しています。

かわら版は「北海道循環器病院」のご協力で発行しています